

## 全国 活動だより

## 北海道

こんな事態はもう御免

越野 義貴(HBC)

コロナ、コロナと怯えつつ嚇されつつ、はや二年を経過してしまいました。

様々な場面、あるいは修羅場をも経験してきた中で、既に精神的には十分免疫ができたあがつた人も多いのではないかと拝察します。

そして首相が外遊ではノーマスクで過ごしたというダブル・スタンダードを見るに、やりきれない違和感を覚えつつも、早く欧米並みにノーマスクで活動できるようになることを切望するのみです。

このような中、北海道民放クラブでは4月に予定していた今年度の総会も、諸般の事情を勘案して、断腸の思いをもって寸前で中止するという、非常に悔しい決断を下しました。

2年続きの総会非開催という

ことで、今回の総会審議も書面による提案と採択という形を取らざるを得ませんでした。実は現在まで「書面投票」が会則に盛り込まれていなかった事に気がつき、改めてこれを会則に明記することを提案して、全員一致の賛成を得ることができました。

しかし、こんなことは金輪際、今回限りで勘弁してほしいもの。やはり、総会で顔をつきあわせて喧々囂々、侃々諤々審議し、採択の結果、シヤンシヤンの全員一致ですっきりするのが筋というものですし、総会終了後の懇親会で、また一本ずつ増えた顔の皺を肴に、一年ぶりの思い出話に花を咲かせながら美酒に酔いしれるという、シナリオ通りの運びが最高なのです。

さらにこんなに活動を自粛していたら、いくら気持ちの若い民放人とはいえ、物理的に体が言うことを聞かなくなってしまう。

とにかく今年はフライングでもいいから、何かやらなくちゃという気持ちが先行するこのごろです。

私事ですが、所属する合唱団では2年間の禁を解いて6月と12月に演奏会を開催します。

6月はニセコ町有島記念館で、有島武郎命日に因み「星座忌コンサート」、さらには12月には札幌コンサートホール「キタラ」でメサイア公演・・・長いブランクを埋めべく特訓中です。

そして自身が音頭をとっている北海道民放クラブ「歩く会」の次回コース、シナリオも既に決定している、あとは実行あるのみ!

それにしてもご紹介できる写真が存在しない・・・こんな事態はもう御免です。

と言ったところで、写真がないというのも淋しい限りなので、合唱団の活動再開に絡めて過去の演奏会で特に思い出深いものを紹介します。

2017年3月26日、札幌コンサートホ



ール「キタラ」におけるバッハの「マタイ受難曲」演奏会ですが、またこのような機会を得ることができると心待ちにしています。

札幌コグダリー合唱団、合奏団・・・後ろから二番目の列、最下手が小生で、児童合唱は我が古巣「HBC少年少女合唱団」の応援を得ました。